

「神戸・西国街道まわり道」パネル展

こうべまちづくり会館 1Fオープンギャラリーにて展示中!

最近、ウォーキングがブームとなっていますが、その中でも旧街道など、歴史にまつわる道を歩く方がとも増えています。神戸市内では旧街道の代表的なものに「西国街道」があります。

この西国街道は、古代には山陽道といわれ、畿内から中国地方を通り、九州につながる重要な幹線道路として発展してきました。その後、江戸時代に西国街道と呼ばれるようになり、西国大名の参勤交代にも使われました。

神戸市内では、東灘区から垂水区にかけて主に海岸付近を通っていましたが、時代の移り変わりにより、現在では国道2号線や43号線などに姿を変え、街道の道筋自体の多くは失われています。

しかし、街道の周辺には、昔の雰囲気をしるばせる神社や仏閣をはじめ、道標などの資源が数多く残っています。これらをたどると、街道の在りし日の姿が思い浮かんできます。



西国街道の道標



現在、神戸市都市計画局では旧西国街道周辺の歴史的・魅力的資源をめぐり歩く散策路「神戸・西国街道まわり道」を設定する作業を進めています。

気軽に歩きながら神戸の魅力を身近に感じていただけるよう、散策コースや施設などを掲載したパンフレットを製作中です(4月配布予定)。



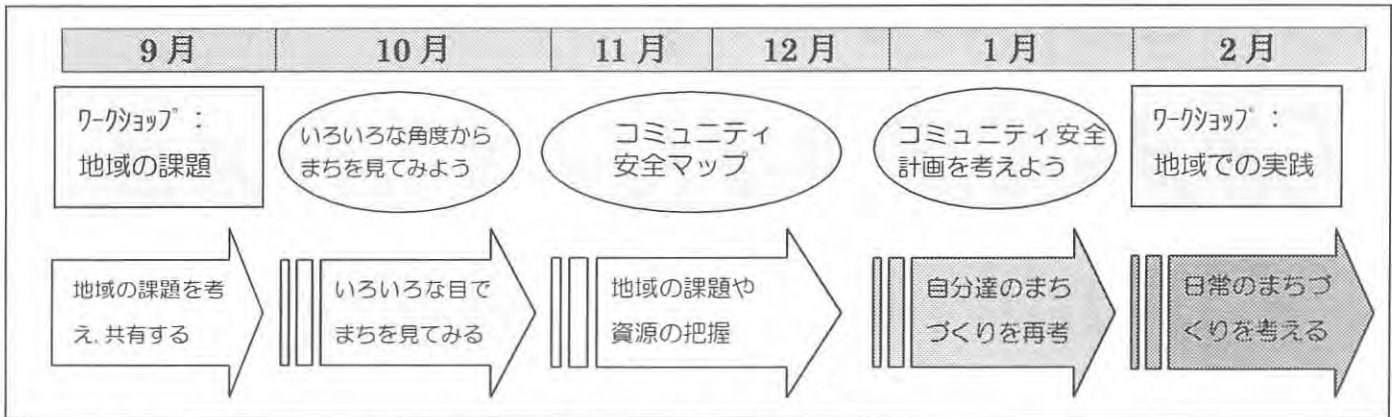
西国街道沿いの案内板と道標

これらを紹介した「神戸・西国街道まわり道」パネル展を、3月末まで、こうべまちづくり会館の1階オープンギャラリーで展示していますので、どうぞお立ち寄りください!

(都市計画局アーバンデザイン室まちづくり支援係)

第4期 こうべ市民安全まちづくり大学 まちづくり講座が最終回を迎えました

半年間にわたって開講した「まちづくり講座」も、今回が最終回となりました。まず、これまでの講座の流れを簡単に振り返ってみましょう。



◎今回のテーマは「安全で安心なまちづくりを考えよう」。

これまでに学んだことを生かして、受講生が大学修了後にそれぞれの地域でどのようにして安全で安心なまちづくりを進めていくかを考える講座です。

講師は、京都大学防災研究所の林 春男先生にお願いしました。

まず、始めに、「防犯の視点を入れたまちづくり」と題してご講演をいただき、それをふまえて、受講生みんなでワークショップです。



<防犯性にすぐれた空間とは>

1. 利用者にとって、見通しの良い空間 (例) 植栽の枝打ち
2. 多様な利用が可能な空間 (例) 多目的に使える場所
3. どの時間帯でもよく利用されている空間 (例) 散歩道
4. 周囲と関わりを持ち、一体化している空間
5. 周囲の人々の目がいつも注がれている空間
6. 近隣住民がその管理運営に深く関わっている (例) 花壇
7. 管理担当者が常駐している空間
8. 生活が表出している空間 (例) 細い路地

<非行少年への接し方4カ条>

1. まず、こちらの方から声をかける
2. 次に、相手に言いたいだけ言わせて話を最後まで聞く
3. こちらが是非を述べるときは感情的にならず、理屈で
4. できることとできないことは、はっきりと言う

<ワークショップで出た主な意見>

- | | |
|---|---|
| Q1 地域活動を阻んでいるものは何か？
・既存の組織に入れない (15年以上住んでないと参画できない)
・行政が地域でつながっていない、役所が不親切 | Q2 解決に向けた糸口はあるか？
・形式ばった集まりでなく、仲良くなるような付き合いから始める
・区役所など利用できる場所は利用する |
| Q3 地域で求められている活動は？
・たむろする少年の対応 (地域活動に巻き込む)
・住民のマナー (ごみ捨てなど) を向上させる | Q4 私達(推進員)にできそうなことは？
・非行に走る前に声をかけてあげる
・地域でコミュニケーションをつくりながら呼びかける |

★★★ 市民安全推進員によるコミュニティ活動報告 ★★★

◎コミュニティ安全マップの報告会

平成13年1月18日、神戸国際展示場で「第5回 震災対策技術展」が開催されました。同時開催の「防災とボランティアワークショップ」(日本災害救援ボランティアネットワーク-NVNAD-主催)の中では、推進員の高倉台校区防災福祉コミュニティ本部長の柴田 重彦さんと南五葉ふれあいのまちづくり協議会委員長の宮田 賢次さんがコミュニティ安全マップの取り組みを発表されました。また、災害図上訓練も実施され、推進員やまちづくり大学の受講生、NVNADや一般市民の方々、約60名が参加しました。

(柴田 重彦さん)



(宮田 賢次さん)



(マップの掲示風景)



会場には、これまでコミュニティが作った22地区の安全マップが掲示され、他市町の住民の方、各種団体・企業の方、大学教授など学識経験者や他都市の行政担当者のほか、多くの方が熱心に見学されていました。

歴史を活かすということ 5

「歴史を活かすということ」もこれで最終回です。今回は、歴史的な事柄に関して私が考えてきたこと、感じていることを話したいと思います。そんなわけでちょっとだけ説教じみた話になるかも知れませんが、お許してください。

●「神戸は新しい町」という誤解

「神戸は新しい町である。1868年の開港時までには、都市としての整備はほとんどなされてなかった。」1979年の市政白書「花時計からの報告」前文の言葉である。確かに“神戸”という“都市”としてはそのとおりなのだが、地域の歴史や伝統までも開港以後のものが主だと誤解されているふしがある。

本当は、明治以前、神戸は海岸沿いの小さな村だったわけだが、現在の市域の広がりでは考えれば、兵庫の津が活況を呈し、灘の酒が生まれた江戸期はもちろん、湊川の合戦があった中世、源平ゆかりの平安時代、万葉集にも歌われている古代の処女塚伝説など、市内各地域を彩る歴史と伝統の豊かさは、日本の都市の中でも屈指のものと言ってよい。

また、神戸の歴史を考えるとときに六甲山系の南側の市街地しかイメージされないことも多い。北区や西区は、昔ながらの田園地帯に近年になってニュータウン開発が行われた地域、といった認識だろうか。

赤松氏ゆかりの淡河城跡や勢力を誇った石峯寺など中世の遺構が残り、日本最古の千年家がある北区、国宝の本堂をはじめとする文化財の宝庫大山寺や古くは明石の中心地だったといわれる玉津のある西区、自然の風景と古い歴史資源とが相まって、「神戸にもこんな所があったのか」と再認識させられる地域である。

神戸もずいぶん広い。市域のいろいろな所を見て回ると、「若々しくハイカラな港町」という以外にも、古い日本的な顔をはじめ、さまざまな表情を持った都市であることがわかる。

●神戸の多様性

神戸市内の各地域が持つさまざまな顔は、神戸の自然、地形あるいは地域ごとの歴史的成り立ちの多様性そのまま特徴となって現れたものといえる。神戸は多様性に富んだまちである。

その多様性を下支えしているのが、外来の人やものを自由に受け入れ、進取の気風に富んだ神戸の人々の開放的な精神ではないかと思っている。つまり、異質なものを排除したり無理に同化したりせず、混在を認め合う神戸の気風が多様性を生み出すのではないか。

海に臨む港町では、元来、新しいものを受け入れる土壌が育ちやすいといわれる。神戸では、それに加え、都に近い瀬戸内海運の拠点として古くから外来の人や物資の交流が盛んであった。1868年の開港によりさらにその流れが加速されるとともに、都市化の進展により、内外問わず多くの人やものが流入し、明るく開放的な独特の神戸文化が形づくられていった。

外からのものを異質なもので偏見なく受け入れるのが長年の神戸の伝統であり、多くの人々が住みやすいと感じる長所である。しかし、近年「神戸のことは神戸だけで解決する。ヨソからあれこれ言うな。」というような閉鎖的な意見を耳にすることが多くなってきたのは残念な気がする。

日本における世界への窓口という機能が低下し、新しい刺激が入って来ることが少なくなったことなどが一因なのかもしれないが、神戸の多様性を活かすためにも、これからも開放的で自由な気風を残していきたいと思う。

●現在も歴史の一部

多く人は歴史と現在を切り離して考える。「昔は昔、今は今」というわけである。しかし、どこまでが歴史でどこからが現在という線を引くことはできないし、今行われていることも後には歴史の一コマになる。

かつて北野の町並み保存に携わっていた頃、地域を通過する自動車交通量を調べようと、既往の同様の調査を探したことがあった。7～8年前に行われたことは判ったが報告書がなかなか見つけれず、調査に携わった担当者に聞いてやっと手に入れた。「現在の交通量を測るのに過去の調査などを見てどうすのか」と言われたが、それでもいろいろと参考になった。

例えがあまり適切でなかったかもしれないが、仕事をしていて、過去の経験やデータ（あるいは前任者たちの事績）があまり活かされていないように感じる人が多い。「歴史はくりかえす」などと言うと、えらく大げさに聞こえるが、人が代わるごとに同じようなことをくりかえしている面もあるのではないか。

現在も歴史の一部であるならば、歴史を活かすということはつまり、大昔であれ最近であれ、これまでやってきた人たちやその事績を大切にすることである。と同時に、将来から見れば現在も歴史となることを意識して、ちょっと視点を移した「未来の目」から今を見ても大切なことだと思う。

浜田有司（住宅局住環境整備課係長）

読者の方からの投稿をお待ちしています

川柳コーナー
 まちづくり
 協働理念で
 花ひらく
 甘洪千
 まちひろば
 ほうきかたてに
 たちばなし
 龜

「21世紀の新産業育成に向けた
 都市・地域戦略シンポジウム」のご案内
 日時 平成13年3月22日(木)午後1時～
 場所 神戸市産業振興センター 3階ホール
 内容 基調講演 ウィリアム.B.スタフォード氏
 (シアトル地区貿易開発協議会代表)
 基調報告 安田丑作氏(神戸大学教授)他
 パネルディスカッション(901号室)

HATフェスティバル

日時:平成13年5月20日(日) 場所:HAT神戸 水際広場周辺
 内容:復興事業の交流、グルメ市場、タレントライブ、クルージング、花火等
 <問い合わせ先>
 神戸市都市計画局計画部新都心整備室 tel 078-322-5486

まちづくり会館からのお知らせ

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
3月1日(木)～6日(火)	聖雲会第20回水墨・南画展	玉垣 華聖
3月8日(木)～13日(火)	第4回神戸墨酔会展(劉素真水墨画教室展)	劉 素真
3月15日(木)～20日(火)	第20回兵庫倶楽部写友会写真展	兵庫倶楽部写友会
3月22日(木)～27日(火)	フランスの額装飾教室生徒展	坂本 宣子
3月29日(木)～4月3日(火)	第15回火彩会作品展(水彩)	火彩会

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

3月1日(木)～31日(土)	西国街道パネル展	都市計画局アーバンデザイン室
----------------	----------	----------------

図書販売のお知らせ

協働のまちづくり・すまいづくり 一震災復興土地区画整理における共同建替の記録一	¥1,500	別途送料を申し受けます。 申し込みは、当センターまで
--	--------	-------------------------------

すまい・まちづくりのご相談は

- すまい・まちづくり人材センター
 (こうべまちづくり会館 3F)
 電話 078-361-4377 FAX 078-361-4584
 受付は、月・火・木・金曜の午前10時～午後5時
- 土・日・祝日は
 まちづくり相談コーナー で受け付けます
 (こうべまちづくり会館4F)
 時間は、午前10時～午後5時

自治会活動などのご相談は

- コミュニティ相談センター(まちづくり会館4F)
 会報等の印刷サービスや学習会へのインストラクター派遣など
 受付:午前10時～午後6時(水曜・年末年始は休館)
 電話 078-361-4565



最寄駅

地下鉄海岸線みなと元町駅西口から1分
 (平成13年7月7日開業予定)
 高速花隈駅東口から3分
 高速西元町駅東口から5分
 JR・阪神元町駅西口から8分